

歴史は繰り返すか

藤乗 嗣泰*

人類は天然痘、ペスト（黒死病）、コレラ、結核、チフス、赤痢、インフルエンザ、HIV（human immunodeficiency virus）、エボラ出血熱、SARS（severe acute respiratory syndrome）など感染症との闘いの歴史を繰り返してきた。人口が増加し、生活環境が悪化すると、感染症のパンデミックが起こり、大量死により新たなバランスが得られて終息する。紀元前の古代ギリシャのヒポクラテス（紀元前 460～370 年）の時代から「ヒポクラテス集典」に“流行病”について全 7 巻も記述があるのは感慨深い¹⁾。小学生の頃に読んだ「ロビンソン・クルーソー」の著者ダニエル・デフォー（1660～1731 年）が、著書「ペスト」に 1664 年 9 月から始まったロンドンにおけるペストのパンデミックについて書いている²⁾。ロンドンの教区ごとの 1 週間の死亡者数の統計報告や、教会墓地に掘った大きな穴に死体運搬車が集めた山積みの遺体を埋葬する様子や、ペスト患者を出した家は封鎖され、監視人がついて外出しないように見張る自粛強要や、また郊外へ脱出する人を捕まえる都市封鎖や、排他的な地方住民などの様子は、現在のコロナ禍の状況を彷彿とさせる。当時は細菌の概念もないので、患者の発する臭気にウイルスがあり空気感染すると考えて香を焚いた。1894 年、北里柴三郎が香港で最初にペストの原因菌を発見し³⁾、同じく香港でフランス人のアレクサンドル・エルサンが原因菌を同定したが⁴⁾、論文の掲載順で、ペスト菌は“エルシニア・ペステリス”とエルサンの名前が付けられた。ペストは中世ヨーロッパから世界中でパンデミックを繰り返し、14 世紀には世界人口の 22 % の 1 億人の死者を出した人類史上最大の感染症で、抗生剤のある今日でも死亡率 8 % と高い。

* 獨協医科大学腎臓・高血圧内科/血液浄化センター

1918年の第一次大戦中に若い体力のある兵士が戦闘よりも多くスペイン風邪で亡くなった。タフツ大学のティモシー・リアリが作ったワクチンが効果があると信じられ、多くの人に接種されたが、寒天培地に感染者の血液を培養して得たコロニーを使ったワクチンで⁵⁾、インフルエンザウイルスが同定されていない時代の免疫学的に効果のないワクチンである。日本でも大正期のスペイン風邪の予防注射として細菌に対するワクチンが多くの国民に無料で投与された⁶⁾。現在、新型コロナウイルス感染症にウイルスのスパイク蛋白のmRNAワクチンが全世界的に投与されている。インフルエンザウイルスのHNのスパイク蛋白が毎年変異するのと同様に新型コロナウイルスのスパイク蛋白もすでに変異しており、ワクチンの効果が懸念される。日本はワクチン接種率が低いときでも人口100万人当りの1週間の新規感染者数がワクチン接種率の高い国に比べ少ないことから、ワクチンよりもマスクや生活習慣や3密（密集・密接・密閉）の回避・人流抑制などが感染防御に役立っているようだ。新型コロナウイルスのワクチン接種の有効性と安全性は歴史の検証を待たねばならないが、スペイン風邪のワクチンのような歴史を繰り返さなければ幸いである。

文 献

- 1) 坂井建雄：図説 医学の歴史。2019, 26-34, 医学書院, 東京
- 2) ダニエル・デフォー 著, 中山 宥 訳：新訳ベスト。2020, 興陽館, 東京
- 3) Kitasato, S. : The bacillus of bubonic plague. Lancet 1894 ; 2 : 428-430
- 4) Yersin, A. : La peste bubonique à Hongkong. Ann. Inst. Pasteur. 1894 ; 8 : 662-667
- 5) Leary, T. : The use of influenza vaccine in the present epidemic. Am. J. Public Health (NY) 1918 ; 8 : 754-768
- 6) アルフレッド・W・クロスビー 著, 西村秀一 訳：史上最悪のインフルエンザ 忘れられたパンデミック。2004, みすず書房, 東京